

利用者のために

本書は、農林水産省の統計組織で実施している青果物卸売市場調査のうち、青果物産地別入荷量調査の結果を取りまとめたものである。

1 調査の目的

全国の主要な青果物卸売市場及びJ A全農青果センターで取り扱った青果物の主要品目について、卸売数量、卸売価額を産地都道府県別に調査し、消費都市と産地都道府県との交流状況を時系列的に明らかにして、生産流通対策等に資することを目的とする。

2 調査の根拠

本調査は、統計法（平成19年法律第53号）第19条第1項に基づく、一般統計調査である。

3 調査機関

農林水産省大臣官房統計部及び地方統計組織を通じて実施した。

4 調査の範囲及び調査対象

(1) 調査範囲

青果物卸売市場が開設されている全国の主要都市を調査の範囲とした。

なお、主要都市とは、以下のいずれかに該当するものをいう。

ア 中央卸売市場が開設されている都市

イ 県庁が所在する都市

ウ 人口20万人以上で、かつ青果物の年間取扱数量がおおむね6万t以上の都市

(2) 調査対象

ア 主要都市に所在する青果物卸売会社

中央卸売市場が開設されている都市（(1)ア）については中央卸売市場のすべての青果物卸売会社を、中央卸売市場が開設されていない都市（(1)イ及び(1)ウ）については年間取扱数量の多い順に都市の80%をカバーするまでの青果物卸売会社を対象とした。

イ J A全農青果センター（3カ所）

全国農業協同組合連合会が埼玉県戸田市、神奈川県大和市及び大阪府高槻市に設置しているJ A全農青果センターを調査対象とした。

5 調査の期間

平成20年1月から12月までの1年間

6 調査事項

本調査は、野菜については総数及び50品目、果実については総数、国産計、輸入計及び44品目・品種を調査品目として、直接入荷（産地都道府県別）・転送入荷（転送元市場別）、輸入別の卸売数量及び卸売価額を調査した。

なお、本書においては、このうち、野菜15品目、果実24品目・品種の卸売数量及び卸売価格について取りまとめた。

7 調査方法

調査は、以下のいずれかの方法により実施した。

- (1) 調査協力者が作成した磁気データをオンラインにより収集する方法
- (2) 調査協力者が作成した電磁的記録媒体の収集による方法
- (3) 調査協力者に対し調査票を郵送配付・回収する自計調査による方法

ただし、調査対象で本社・支社の関係にあるものについては、原則として本社において支社分を含めて調査した。

8 集計方法

調査対象ごとの月別調査結果を積上げて年計値を算出し、主要消費地域ごとに集計した。

(1) 野菜

ア 次の15品目について、主要消費地域ごとに、産地別・月別の卸売数量及び卸売価格を表章した。

だいこん、にんじん、はくさい、キャベツ、ほうれんそう、ねぎ、レタス、きゅうり、なす、トマト、ミニトマト、ピーマン、ばれいしょ、さといも、たまねぎ

イ 主要消費地域は以下のとおりとし、併せて各主要消費地域を代表する地域についても表章した。

表1 主要消費地域一覧表

主要消費地域	主要消費地域に含まれる都市
北海道	札幌市・旭川市・室蘭市・函館市
札幌	札幌市・旭川市・室蘭市
東北	青森市・八戸市・盛岡市・仙台市・秋田市・山形市・福島市・いわき市
仙台・盛岡	仙台市・盛岡市
関東	さいたま市・上尾市・戸田市・千葉市・市川市・船橋市・松戸市・柏市・東京都・横浜市・川崎市・ ¹⁾ 藤沢市・大和市・水戸市・宇都宮市・前橋市・甲府市・長野市・松本市・静岡市・浜松市・沼津市
京浜	さいたま市・上尾市・戸田市・千葉市・市川市・船橋市・松戸市・柏市・東京都・横浜市・川崎市・ ¹⁾ 藤沢市・大和市
北陸	新潟市・富山市・高岡市・金沢市・福井市
東海	岐阜市・名古屋市・豊橋市・ ²⁾ 津市・ ³⁾ 四日市市
近畿	大津市・京都市・ ⁴⁾ 大阪府・神戸市・姫路市・尼崎市・西宮市・ ⁵⁾ 奈良市・和歌山市
中国	鳥取市・松江市・岡山市・広島市・呉市・福山市
四国	徳島市・高松市・松山市・高知市
九州	下関市・宇部市・北九州市・福岡市・久留米市・佐賀市・長崎市・佐世保市・熊本市・大分市・宮崎市・鹿児島市
北九州	下関市・宇部市・北九州市・福岡市・久留米市・佐賀市

- 注： 1) は、藤沢市青果市場が開設されている都市であり、その開設区域は藤沢市及び茅ヶ崎市である。
- 2) は、三重県松阪市に三重県中央卸売市場として市場が開設され、その開設区域は、津市、松阪市である。
- 3) は、北勢公設地方卸売市場が開設されている都市であり、その開設区域は桑名市、四日市市、鈴鹿市、いなべ市、木曾岬町、東員町、朝日町、川越町、菰野町である。
- 4) は、大阪府全域とした。
- 5) は、大和郡山市に奈良県中央卸売市場として市場が開設され、その開設区域は大和郡山市、奈良市、大和高田市、天理市、橿原市、桜井市、御所市、生駒市、香芝市、葛城市、生駒郡、磯城郡、高市郡及び北葛城郡である。

(2) 果 実

ア 次の12品目（品種細分12）について、主要消費地域ごとに、産地別・月別の卸売数量及び卸売価格を表章した。

みかん、甘なつみかん、いよかん、はっさく、りんご（つがる、王林、ふじ）、日本なし（幸水、豊水、二十世紀）、かき（甘がき、渋がき）、もも、ぶどう（デラウェア、巨峰）、いちご、メロン（温室メロン、アンデスメロン）、すいか

イ 主要消費地域は、次の12都市とした。

札幌市、仙台市、東京都、横浜市、金沢市、名古屋市、京都市、大阪府、神戸市、広島市、北九州市、福岡市

ウ 産地はイの都市ごとに入荷量の80%をカバーする入荷量上位の産地（都道府県）、又は上位5産地（都道府県）とした。

9 目標（実績）精度

この調査においては、目標精度は設定していない。

10 用語の解説及び約束

(1) 青果物卸売市場

ア 青果物卸売市場とは、卸売業者が生産者若しくは集出荷団体等から委託を受け、又は買い付けを行い、仲卸業者又は小売業者に対し「せり」、「入札」又は「相対」の方法で建値を行って売りさばくための場立ちの行われる場所をいう。

したがって、産地で生産者から荷を集めて、これらを消費地に出荷するいわゆる産地の集荷市場は含めない。

イ 中央卸売市場とは卸売市場法（昭和46年法律第35号）に基づき地方公共団体が農林水産大臣の認可を受けて開設している市場であり、平成20年12月末現在開設されている中央卸売市場は、次の64市場となっている。

札幌市、函館市、室蘭市、青森市、八戸市、盛岡市、仙台市、秋田市、山形市、福島市、いわき市、宇都宮市、千葉市、船橋市、東京都（築地・大田・豊島・淀橋・板橋・世田谷・北足立・多摩・葛西）、横浜市（本場・南部）、川崎市（北部）、甲府市、新潟市、金沢市、富山市、福井市、岐阜市、静岡市、浜松市、名古屋市（本場・北部）、三重県、京都市、大阪市（本場・東部）、大阪府、神戸市（本場・東部）、姫路市、奈良県、和歌山市、岡山市、広島市（中央・東部）、宇部市、徳島市、高松市、松山市、高知市、北九州市、福岡市（青果・東部・西部）、久留米市、長崎市、佐世保市、宮崎市、鹿児島市、沖縄県

(2) JA全農青果センター

JA全農青果センターとは、全国農業協同組合連合会が消費都市及びその周辺地域において一定

の施設を備え、継続的に生鮮食料品の集分荷、価格形成、決済などを行い、卸売市場に代替する機能を果たしているものをいう。

(3) 青果物卸売会社

本調査で青果物卸売会社とは、集出荷団体、集出荷業者又は生産者から青果物の販売の委託を受け又は買い付けて、青果物の卸売業務を行う法人又は個人をいう。

(4) 調査対象都市

都道府県別に都市を整理すると表2のとおりである。

表2 都道府県別調査対象都市一覧表

都道府県名	都 市 名	
北海道	札幌・旭川・函館・室蘭	(4)
青森	青森・八戸	(2)
岩手	盛岡	(1)
宮城	仙台	(1)
秋田	秋田	(1)
山形	山形	(1)
福島	福島・いわき	(2)
茨城	水戸	(1)
栃木	宇都宮	(1)
群馬	前橋	(1)
埼玉	さいたま・上尾	(2)
千葉	千葉・市川・船橋・松戸・柏	(5)
東京	東京都全域（島しょ部は除く。）	(1)
神奈川	横浜・川崎・藤沢（藤沢・茅ヶ崎）	(3)
新潟	新潟	(1)
富山	富山・高岡	(2)
石川	金沢	(1)
福井	福井	(1)
山梨	甲府	(1)
長野	長野・松本	(2)
岐阜	岐阜	(1)
静岡	静岡・浜松・沼津	(3)
愛知	名古屋・豊橋	(2)
三重	北勢（桑名・四日市・鈴鹿・いなべ・木曾岬・東員・朝日・川越・菰野）・三重（津・松阪）	(2)
滋賀	大津	(1)
京都	京都	(1)
大阪	大阪府全域	(1)
兵庫	神戸・尼崎・姫路・西宮	(4)
奈良	奈良（大和郡山・天理・大和高田・奈良・橿原・桜井・御所・生駒・香芝・葛城・磯城郡・北葛城郡・高市郡・生駒郡）	(1)
和歌山	和歌山	(1)
鳥取	鳥取	(1)
島根	松江	(1)

表2 都道府県別調査対象都市一覧表（つづき）

都道府県名	都	市	名
岡山	岡山		(1)
広島	広島・呉・福山		(3)
山口	下関・宇部		(2)
徳島	徳島		(1)
香川	高松		(1)
愛媛	松山		(1)
高知	高知		(1)
福岡	北九州・福岡・久留米		(3)
佐賀	佐賀		(1)
長崎	長崎・佐世保		(2)
熊本	熊本		(1)
大分	大分		(1)
宮崎	宮崎		(1)
鹿児島	鹿児島		(1)
沖縄	那覇		(1)
計			74都市

注：卸売市場の開設区域が複数の市町村にまたがる場合、当該市場名を都市名とし、（ ）書きで開設区域内市町村を示した。また、当該市場の所在市町村をアンダーラインで示した。

(5) 卸売数量

卸売数量とは、青果物卸売市場で「せり」、「入札」又は「相対」の方法で売りさばかれた数量（転送量を含む。）であり、その荷物の荷姿の単位ごとに表示されている量目をkg換算した数量である。

なお、本書に掲載した卸売数量は直接入荷分のみであり、転送入荷分は含まない。（卸売価額及び卸売価格についても同様）

(6) 卸売価額

本調査における卸売価額は、消費税を含む価額である。

(7) 卸売価格

卸売価格は、卸売価額を卸売数量で除して算出した1kg当たりの平均価格である。

注：産地・季節によっては一部注文等により極端に高価なものが入荷したり、また質の悪いすそものなど安価なものが持ち込まれることがあり、卸売数量が4t以下については適切な卸売価格を表さないことがあるため「…」と表示した。

(8) 転送量

本調査で転送量とは、一度卸売市場に上場されて販売された青果物が、仲卸業者などを経て再び他の卸売市場に上場された数量をいう。

なお、本書においては、卸売数量に転送量を含めていない。

11 統計表の見方等

(1) 本書に掲載した産地都道府県は、青果物卸売市場に入荷した時点で、荷主の居住する都道府県とした。

なお、別途公表している「野菜生産出荷統計」及び「果樹生産出荷統計」の産地都道府県は、収穫、出荷した都道府県であり、本書の産地都道府県とは異なることがある。

- (2) 本調査の調査対象期間は暦年（1月～12月）であり、別途公表している「野菜生産出荷統計」及び「果樹生産出荷統計」の調査対象期間は、品目ごとの年産区分によっているため、本統計の調査対象期間とは異なることがある。
- (3) 統計表中に使用した符号は、次のとおりである。
- 「0」：単位に満たないもの（例：0.4t→0t）
 - 「－」：事実のないもの
 - 「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
- (4) 本統計の累年データについては、農林水産省ホームページの統計情報に掲載している分野別分類の「農畜産物卸売市場」、品目別分類の「野菜」・「果樹」でご覧になれます。
- 【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei> 】
- なお、本調査の結果については、別途刊行している「青果物卸売市場調査報告」においてもご覧になれます。

12 連絡先

農林水産省 大臣官房統計部 生産流通消費統計課消費統計室 流通動向第1班

代表 03（3502）8111 内線3713

直通 03（6744）2047